

東京



東京編集部

〒100-8077
東京都千代田区
大手町1-7-2

☎ 03・3275・8747
FAX 03・3275・8975
shuto@sankei.
co.jp

広告 042・525・4138

購読申し込み

0120・81・2950

配達・集金

0120・34・4646

紙面・記事
03・3275・8864

Web

http://sankei.jp.msn.
com/region/region.htm

あすのこよみ

(17日)
旧3月27日
《大安》



月齢…… 25.5
日出…… 5:06
日入…… 18:16
月出…… 2:39
月入…… 14:38

酒席の余興として生まれ、およそ40年。カラオケが進化し続けている。携帯端末につなげばどこでも歌える「スマカラ」が愛好者の交流を育む一方、ひとりカラオケ専門店「ワンカラ」がサラリーマン層などの新規「孤客」を開拓し、今夏までに都内に10店舗の出店攻勢をかけている。今の日本を象徴する「絆」と「孤独」の両面から、歌の持つ力が見直されている。

(重松明子、写真も)



賞金100万円をかけて対戦した和嶋美奈子さん(右)と久保ブルーノケンジさん。中央のiPadに歌詞映像が流れる
—東京都港区

進化カラオケ

絆と孤独…どこどこでも

iPad(アイパッド)やiPhone(アイフォン)につなぐと、画面にカラオケ店同様の歌詞映像が流れる世界初の家庭用動画通信カラオケシステム「スマカラ」(参考価格9800円)は、昨年11月にサン・ホームエンターテインメントが発売。歌い放題で月額利用料1200円など手ごろで、家電量販店を中心に計画比4倍の1万7千台が売れている。

今年1〜2月、採点機能を生かして、ユーザー向けに「スマカラ」で100点取れたら100万円プレゼント企画を行ったところ、三重県の工場に勤務す



プロ仕様の高感度マイクで熱唱中
—東京都千代田区のワンカラ神田駅前店

近ごろ都に流行るもの

る日系ブラジル人、久保ブルーノケンジさん(23)と北海道のパートナー主婦、和嶋美奈子さん(29)が100点を獲得した。楽譜通り完璧に歌わなければ取れない100点。「まさか複数出るとは。賞金を分けるよりも直接対戦の場を設け、予定通り100万円を贈りたい」(楳修社長)として、このほど都内で開かれた決勝戦。花見舟で行つ予定があいにくの風雨で、急遽貸し会議室に移動。図らずも「どこでも」特性が生かされた。

優勝した和嶋さんは、誕生日に夫からiPadとスマカラをセットで贈られたそうだ。「自宅で5時間連続、のどがかれるまで歌うことも。カラオケボックスのように時間を気にしなくていいのがあるがたい」。惜しくも敗れた久保さんは、在日ラテンアメリカ人向けのご自慢で優勝経験もある猛者だ。「上達するには練習あるのみ。いつでも歌える環境を家族と楽しんでいます」

オープンした、ひとりカラオケ専門店「ワンカラ」神田駅前店にも訪れてみた。

1畳ほどの個室が24室並び、平日の午後2時過ぎだが17室埋まっていた。「平日でも昼間から満室になる日もある。8割が近隣サラリーマンで、過半数がリピーターです」と展開するコシダカ首都圏事業本部の矢野斉さん。昨年のクリスマススイブは1時間待ちもでる盛況。一緒に来店して別々の部屋に入るカップルなど想定外の需要も掘り起こし、今月27日に高田馬場、来月には池袋にも開店予定。「8月までに山手線沿線を中心に10店舗は出したい」と勢いづく。

神田駅前店の料金は正午〜午後5時までが1時間600円でソフトドリンク飲み放題。外回り中の休憩にも使われているらしい。東京都武蔵野市のフリーター男性(22)に話を聞くと「発音が悪くて人前で歌えない洋楽を思い切り歌った。友人とのカラオケは空気を読んで、みんなが知っている歌を選ばなくてはいけないけど、1人なら自由。どちらもありだと思つ」。

酒も販売しているが、飲酒する人は少ない。バッティングセンターやゴルフ練習場のような感覚だろうか。「本気で歌いに来る場所ですね」と矢野さん。私も、曲を選んでマイクに向かう。イントロとともにこみあけてきたのは気恥ずかしさだ。酔わずに歌うなんてできないタチだが、次第に隔絶された狭小空間に慣れ、歌の世界にどっぷり漬かっていった。昭和歌謡の詞の深さに胸をつかれて涙。予想外のカタルシス…。

安全な親子で

鮫洲運動 親子で正しい方を知って事故を防止し交通安全運動 日、「親子三室」(大井署など)品川区東大井の許試験場で開か0人が参加した 同署員らが、片手運転などの方を実演。参加

目黒区長選

任期満了に伴い 選は15日告示

青木 英一



土屋 克彦



松尾 信彦



後藤 輝樹

